

場所・面積 東京都清瀬市、1.6 ha

管理目的 都市部における生物多様性の確保を目的とした雑木林および希少植物の保全在来種の保護を目的とした緑地の整備

サイト概要 東京都清瀬市に位置する大林組技術研究所内に残された雑木林で、昔からある地域の自然の姿がそのまま保全されている。雑木林内では、希少植物の分布調査と保全が実施されている。地元の市民団体を招いた希少植物の観察会を、2009年から毎年実施している。



土地利用の変遷 1965年に農地として利用されていた土地に大林組技術研究所が設置され、今日まで管理が実施された雑木林。

サイト周辺の環境 東京都清瀬市に位置し、周囲は宅地や生産緑地となっている。

アピールポイント 雑木林内には絶滅危惧種Ⅱ類に指定されているキンラン、ギンラン、ササバギンラン、サイハイランなどが自生している。技術研究所の研究林としても使われており、最適な林床管理手法の検討なども実験的に行われている。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

コナラを中心とした雑木林で、かつて薪炭林として使われていたと思われ、地域の自然が質の高いまま残されている。

【主な植生】

コナラ、クヌギ、イヌシデ、ケヤキ、エゴノキなど

【確認された主な動植物】

キンラン、ギンラン、ササバギンラン、サイハイラン、シュンラン、マヤラン
ヤマユリ、リンドウ、オオバギボウシ
ツリガネニンジン、ワレモコウ、ホタルブクロ、ツルボ

ホンドタヌキ

アオオサムシ、マルクビツチハンミョウ、ウラナミアカシジミ



写真の撮影年月：2021年4月

写真の説明：対象地内の管理区の風景



写真の撮影年月：2020年9月

写真の説明：林縁部は草刈がなされ草原生種が生育している。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

コナラを中心とした雑木林で、かつて薪炭林として使われていたと思われ、地域の自然が質の高いまま残されている。

【主な植生】

コナラ、クヌギ、イヌシデ、ケヤキ、エゴノキなど

【確認された主な動植物】

キンラン、ギンラン、ササバギンラン、サイハイラン、シュンラン、マヤラン
ヤマユリ、リンドウ、オオバギボウシ
ツリガネニンジン、ワレモコウ、ホタルブクロ、ツルボ

ホンドタヌキ

アオオサムシ、マルクビツチハンミョウ、ウラナミアカシジミ



写真の撮影年月：2021年8月

写真の説明：林縁部の草刈り環境に生育するツルボ



写真の撮影年月：2019年3月

写真の説明：カメラトラップで撮影されたホンドタヌキ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

コナラを中心とした雑木林で、かつて薪炭林として使われていたと思われ、地域の自然が質の高いまま残されている。

【確認された希少種】

- ・キンラン (*Cephalanthera falcata*) 環境省VU、東京都（北多摩）NT
- ・ギンラン (*Cephalanthera erecta*) 東京都（北多摩）EN
- ・ササバギンラン (*Cephalanthera longibracteata*) 東京都（北多摩）NT
- ・マヤラン (*Cymbidium nipponicum*) 環境省VU
- ・リンドウ (*Gentiana scabra* var. *buergeri*) 東京都（北多摩）VU
- ・カッコウ (*Cuculus canorus*) 東京都（北多摩）VU
- ・リスアカネ (*Sympetrum risi*) 東京都（多摩部）NT
- ・ニホンヤモリ (*Gekko japonicus*) 東京都（北多摩）留意種
- ・ヒガシニホントカゲ (*Plestiodon finitimus*) 東京都（北多摩）VU
- ・ニホンカナヘビ (*Takydromus tachydromoides*) 東京都（北多摩）VU
- ・アオダイショウ (*Elaphe climacophora*) 東京都（北多摩）NT



写真の撮影年月：2021年4月

写真の説明：キンラン



写真の撮影年月：2021年5月

写真の説明：サイハイラン

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【管理計画の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部に実験区画を設け、継続して年1-2回の林床植物の刈取を行う。 林縁部は年数回の刈取を行う。目的は周縁部の点検管理のためであるが、結果的に草原生種に好ましい環境が創出されている。 その他必要に応じて危険木の伐採等を行う。 その他の場所は基本的に下草刈など行っていないが、キンラン個体数は増加し、他の林床植物も維持されているため、基本的には積極的な管理は行わない方針である。 管理は生物担当社員および管理会社が実施。 <p>※今後萌芽更新なども行う予定で、全体的な管理計画を策定中である。</p> <p>モニタリング計画補足</p> <p>動物のモニタリングは、随時社員が見かけた種を写真等で記録する。</p>	<p>【モニタリング対象】 樹木</p> <p>【モニタリング場所】 対象地全体</p> <p>【モニタリング手法】 LiDARを用いた毎木調査</p> <p>【実施時期及び頻度】 2022年8月、2023年2月に実施済 今後数年に1回程度実施し、変遷をモニタリングする。</p> <p>【実施体制】 社員（研究員）が実施（外注の場合もアリ）</p> <p>【モニタリング対象】 林床植物</p> <p>【モニタリング場所】</p> <ol style="list-style-type: none"> 対象地全体 対象地内の草刈実験区 <p>【モニタリング手法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 目視によるラン類の個体数調査 目視による林床植物のモニタリング <p>【実施時期及び頻度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1998年から毎年実施 2021年より毎年実施 <p>【実施体制】 社員（研究員）が実施</p>